

## 入隊者が活躍する災害派遣状況を情報提供

自衛隊神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長 内山2空尉）は、令和3年7月3日（土）に発生した静岡県熱海市での土砂災害に伴う災害派遣の状況について、防衛省統合幕僚監部からの公表資料を活用し、事務所出入口に掲示を行なった。災害派遣期間中は、毎日情報を更新し情報提供に努めた。

当初から熱海市で活動している陸上自衛隊板妻駐屯地は、神奈川県からの入隊者が多く配属されており、市ヶ尾募集案内所からも近年入隊者が新隊員教育を受けたり、配属されている部隊である。そのため、部隊の活動状況を地域の皆様にお伝えしたいという思いで掲示を始めた。掲示を更新している作業中には、同ビルのテナントで勤務している方から「あの土石流の映像は衝撃でした。身近な場所から災害派遣に向かわれているんですね」「暑い中、対応して頂いている姿は本当に頭が下がります」と声を掛けて頂ける場面もあった。

市ヶ尾募集案内所は「当所からの入隊者たちが、実際に災害派遣の任務についている状況を近隣の皆様にお知らせし、自衛官の仕事や活動を身近に感じてもらえることに役立った。今後も地域に寄り添った情報発信に努め、自衛隊の活動について理解を深めて頂くとともに、自衛官という職業を選択するきっかけとなってほしい」としている。



事務所出入口に情報を掲出した様子

## 『海上自衛隊航空部隊で待っています』 隊員から熱いエール

自衛隊神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長 内山2空尉）は、令和3年7月15日（木）5名、16日（金）7名の志願者を海上自衛隊厚木航空基地の職場見学へ招待した。

当日は厚木基地内の各部隊の支援を受け、海上自衛隊航空部隊の魅力伝えてもらった。管制官が勤務する運航隊では、管制塔に上がり、滑走路を一望しながら管制官の仕事について説明を受けた。厚生隊では、隊員の福利厚生内容やワークライフバランスの取組みについて説明を受け、事務系の職種で活躍する隊員の存在に様に驚いた様子だった。昼食には海上自衛隊名物のカレーに舌鼓を打ち、海上自衛官を支えている料理でお腹を満たした。地上救難班では、大型の消防車両を見学し、隊員が使用する装備器具を背負って重さを体感した。警備隊においては、警備隊員による教練を見学した。また、広報資料館や第4整備補給隊見学もあり、充実した職場見学となった。各部隊の隊員からは「厚木基地で待っています」と多くのエールもいただいた。

見学後の参加者からは「航空部隊の存在を知らなかったので、海上自衛隊のイメージが変わりました」や「飛行機に携わる仕事に興味が湧いてきました」と前向きな感想が多くあった。海上自衛隊厚木基地は、米軍との共同利用基地のため他の自衛隊基地や駐屯地と違う雰囲気もあり、特別な体験と感じてくれたようだった。

市ヶ尾募集案内所は「今回の見学では、海上自衛隊航空部隊での勤務をイメージしてもらえた貴重な時間だった。今後も各受験者のフォローを継続し、確実に入隊へとつなげていきたい」としている。



4整備隊で航空機部品の説明



地上救難班の仕事を体験



敬礼を受ける参加者



海上自衛隊のカレーに舌鼓

